

2013 年 2 月 14 日

株式会社産業革新機構、第一三共株式会社、三菱 UFJ キャピタル株式会社とともに、
神戸大学などの研究グループ発シーズを用いた
デュシェンヌ型筋ジストロフィー症治療薬開発会社への出資を決定

株式会社産業革新機構（以下「INCJ」）（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 能見公一）は、神戸学院大学総合リハビリテーション学部 松尾雅文教授（神戸大学 名誉教授）（以下、「松尾教授」）および神戸大学大学院医学研究科 竹島泰弘特命教授（以下、「竹島特命教授」）が発明したシーズを用いたデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療薬（以下、「本治療薬」）の開発を目的として、第一三共株式会社（以下「第一三共」）（本社：東京都中央区、代表取締役社長兼 CEO 中山譲治）が新規設立する株式会社 Orphan Disease Treatment Institute（以下、「新会社」）の第三者割当を引受け、総額 16.5 億円を上限とする投資を行うことを決定しました。

また、新会社は三菱 UFJ キャピタル株式会社（以下、「三菱 UFJ キャピタル」）（本社：東京都中央区、代表取締役社長橋本仁宏）の運用するファンドに対しても第三者割当増資を行う予定です。

本治療薬が対象とするデュシェンヌ型筋ジストロフィー症（以下、「DMD」）は、新生男児の約 3,500 人に 1 人が統計的に発症する遺伝性の疾患です。DMD は 2 歳～5 歳から軽度の自立障害が発症し、年齢を重ねるとともに筋萎縮が進行すると共に歩行不能・呼吸障害となり、心不全等により 20～30 歳代で死に至る極めて重篤な難病でもあります。なお、DMD の原因は体内においてジストロフィンというタンパク質が産生されないためであることが解明されていますが、DMD の根本的な治療法は確立されておらず、有効な治療法も存在していません。

松尾教授および竹島特命教授は、神戸大学において世界で初めてエキソンスキッピング誘導療法を用いて DMD の進行を遅らせることにより、患者の延命を図る DMD 治療法を発明しました。

現在、松尾教授および竹島特命教授は、第一三共が発明した ENA オリゴヌクレオチドを用いてエキソンスキッピングを誘導することにより、DMD の進行を遅らせる治療法の研究を進めており、新会社はこの治療法を基とする DMD 治療薬を第一三共と共同開発します。

INCJ は、神戸大学などの研究グループによるアカデミアシーズ、第一三共からの資金・知財・技術・ノウハウ並びに三菱 UFJ キャピタルからの民間資金を活用し、オープンイノベーションを実現する新会社に対して、必要資金を提供するとともに社

外取締役の派遣や業務体制の構築等の経営面でのサポートを行います。

INCJ は新会社における本治療薬の開発により、DMD 患者の QOL (Quality of Life) の改善およびアンメットメディカルニーズの充足ができるものと考えています。

また、本投資を通じてアンメットメディカルニーズが高いオーファンドラッグ^(注)への国内製薬企業の取り組みの支援および民間資金供給の呼び水として、日本の創薬の活性化を目指します。

(注) 日本国内の対象患者数が 5 万人未満の疾患かつ医療上その必要性が高い医薬品

株式会社産業革新機構 (INCJ) について

INCJ は、2009 年 7 月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約 2 兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

INCJ では、これまでに合計 33 件・総額約 6,000 億円の投資決定を発表しました。当面、環境エネルギーにも関連するエレクトロニクスや IT の分野、バイオ・ライフサイエンス分野、水ビジネス等インフラ関連分野などにおいて、知財ファンドによる先端的な基礎技術の事業展開、ベンチャー企業等の事業拡大、技術等を核とした事業の再編・統合、海外企業の買収等による積極的な海外展開などに対してハンズオン投資を行ってまいります。

(本発表資料のお問い合わせ先)

(株) 産業革新機構 企画調整室 小林・市原・望月・松島
東京都千代田区丸の内 1-4-1
丸の内永楽ビルディング 21 階
電 話 : 03-5218-7200 (大代表)